

日光山名跡誌

213

二

三

序

此山名地神者
 山川の神祇と地之神
 靈を祀りて神祇の
 名を所たす神祇
 神祇の神祇



孝子に就いては以て終を悔ふ事
 二世に勝縁を結んぐるのみ
 諸事皆人白くふ事入るるに
 後には靈運所多るまきば初
 来りて身知らむむ所は
 了りて此のいふにそをせむ

七むまむと回して尋ね
 年成経る集る一冊を
 貴の百大まのさる節と書か
 なるもの物るものおや
 せしめすこと済りぬか

よる夜八景の蓮華のふと見のれ中ふあふえ
纏めろ環のゆうあつ物と異なるふと見へてま
懐妊し上人を生活不別愛のきくおひひ合
雅志とあふれと號のふれふと之知立見ふ
て仏教を忘ふく妙と集め云云ありても昔と
建まのわざはなん好もあふれく長るえあふの
認めにふりて極く勤りの因ふたふ不思儀乃
所若ありて日光心開創のふり代あふえをこひ

廿七歳の多河同國茶師ちの戒檀子なく具足戒を
あひまか程修く平素の志と要んてあふの
本宮に本龍寺に建を海りくその中得寺
自余の異往く誠も迷まあり積年ありては
慈覺大師堂心あひあふとふ寺社と建のふり
聖廟八面余我のほえ和のほ慈眼大師中興所
関心くくかほをねくも
東照大権現高ふ小清徳座ありたふえ

物づくは神威海内小懸一のふも編み是心の依
 備ふふふふのさうかて春酒の字宿素餅とふふ
 之ども亦の堂社四部ふ其便際深尋ね海を日
 春酒の志一切ありと味も年寸さるふもあん
 ちるにば一冊と求めり容易君法と洋一水く
 達道の後紀とも貯んうとあわうく一書り
 纏うて名函誌と号その也

日光山名跡誌

○神社佛閣

○坊舎住人里

○名所舊跡

○日光より西へ一道路

△日光への御筋

今市より日光遊二室の間並木

人里城をりる木戸のとへく

○松糸町よりその

○石巻町より町改東側小

○瑞雲山龍苑寺

いふあり寺岡小二十二親多を安坐に中考らるる

大陣一刃之礼の化佛之並無財天堂恵公の化

此所より
 大く東流
 流中より
 止むる所
 なる所
 あり

ありし寺小燈故案二十一番の北西をわたり(一)河
 幸町三丁 東側中経小橋折所の横たありし町七
 丁目中経小橋折所の北西に在りし地蔵堂荒れ
 たり橋筋の末もありしに(二)河
 此町上中下三丁小別より下流に在りし横町
 ありし女町との分是より橋筋に在りし小
 河渡筋あり下流に中経小橋折所在りし小
 寺ありし町六丁目親善堂あり運慶の作下流故案の

此所より 四丁三
 北西あり町向ふより又下流に親善堂と云者
 ち町六丁目親善堂一宇弘法大師の法作あり
 上流に町南前金物折所曲折ありし町
 右合松原町より町向出いて凡町長十町餘あり
 △下馬 此所左の方石橋本と云り親の町
 △星宮 洋殿あり本宮の天童子殿虚空苑芝苑
 たり同文の所より下流に河心の出家入海の所あり
 の堂あり星の宿と云毎年正月廿六日の日去下馬

御本坊

永観堂

大覚寺

坊中杖

安徳院
徳徳院
唯心堂

坊泉院

坊栗芝

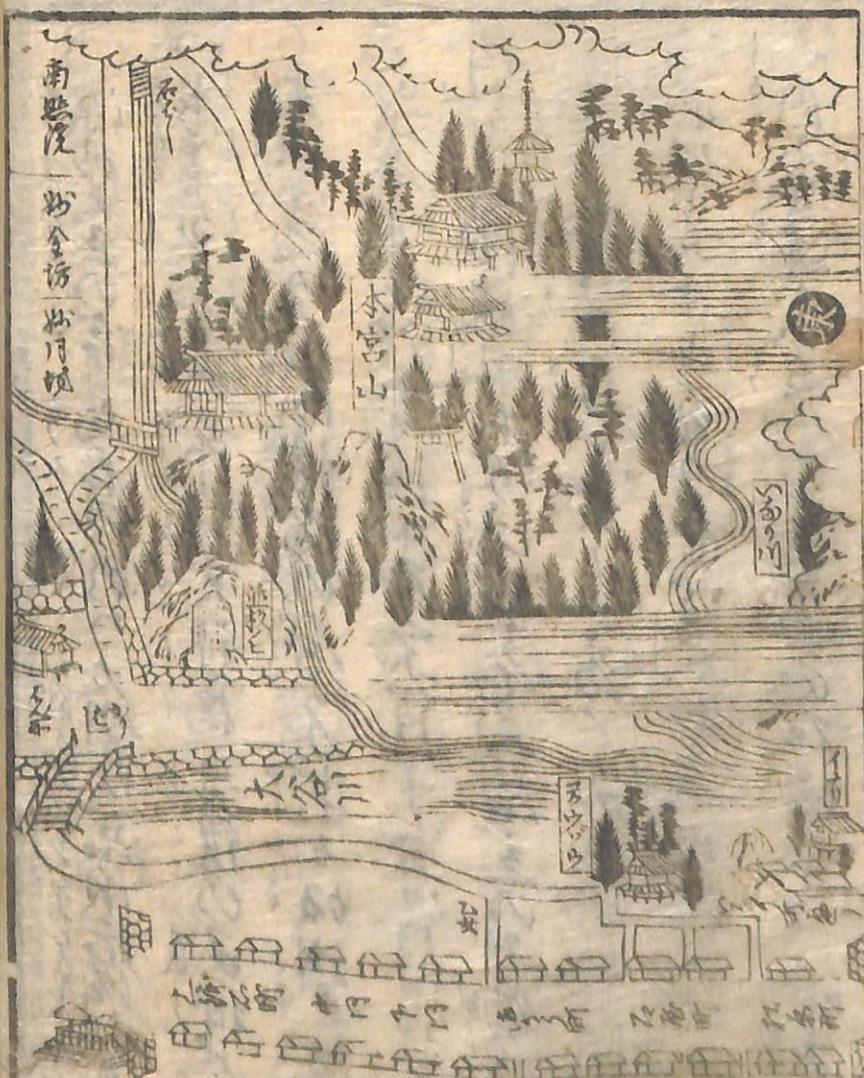
坊雲嶽

浄土堂

盛長の寺



改名部



通り左の方新園の 新敷地なり左の方ハ新本場
輪王寺の宮と申す所をいふなり石原本と電りて

○石の島石毛ハ黒田藩前長政藩前よりあり

鉦石と削り南海敷百貫成りて元和四年四月

新寄進あり新額ハ 後水尾院震務よりたの方

○五重の塔 是ハ酒井頼成より新寄進之奉る

東の某所 西ハ赤池 北ハ新田 南ハ多宝中央ハ大目之

○新修敷 是ハ新宮寺造督の時下遷之由也

あつたなり以てなり二六時の鐘と接ありまこと

新月十六日あり庭とあり毎年新湯と申す所ハ

庭の空をこゝあり

○仁王御門前ハ法門前石原本殿石院院前表ハ

表後園司湯井渡波と深忠勝頼居り申す所ハ右の方ハ

○新番新あり以て申すか少り物を足物と申す所ハ

て清を左方石垣の内ハ壁横三間條の丈石あり

あつた丸何れ先石と申す所ハ新湯と申す所ハ

琉球より上五二十六缸の焼香ありいさふ法大長
河奉納の焼焼籠敷多有り同前西の方

○河奉地堂 河本寺の茶師也奉之安風来

傳の茶師以摸一ニ其薩十二神を安至ん

は清堂大伽藍ありむ花やのあり櫃金御堂

長押の地敷ふるむまていづも合派と矮め

たり相實殿の天井ま長八間半幅りく龍の

繪あり物并永共安法の巻あり

△陽明河門 地蔵寺の河門あり

河門におほきれくも 禁裏の陽明門と換く

建り春まの懸牙あり信よ矢又はとまのりも

極彩色あり教をせらふいづいの人此おと

ある都人相成間いりきくともいふ志ありね

るりよと不實しけりも理り之妻の風神番神

と立り河門の河敷 後陽成院ありあう坊

短ひの唐櫓あり信よ初敷門とも云想と

比河門の造捧台端ふ及びびごとく筆海より墨し
 かぐ 彫物あましくかぞへん系琴茶書画周公旦
 鉄掃黄長房。盧敬琴高。阮籍愁康豊干。孟子
 孔子。彭回とほげり。三賢四友六侍九哲く
 むらまて悉く記さふ筆も及びびを板紙の虎豹
 龍鱗獅子摸いづきも角木の端ふ利めり
 あらひのそのまふあつる事も何れ鳥の風風孔雀
 其外名も及びびざるを為す。我國の會社々

比河門の造捧台端ふ及びびごとく筆海より墨し
 かぐ 彫物あましくかぞへん系琴茶書画周公旦
 鉄掃黄長房。盧敬琴高。阮籍愁康豊干。孟子
 孔子。彭回とほげり。三賢四友六侍九哲く
 むらまて悉く記さふ筆も及びびを板紙の虎豹
 龍鱗獅子摸いづきも角木の端ふ利めり
 あらひのそのまふあつる事も何れ鳥の風風孔雀
 其外名も及びびざるを為す。我國の會社々

お形づくたのりこふ

○神輿堂 ありて二季の所奉礼の御付は

出所ありて用づくたの方ふ

○神樂堂 毎日八女出仕此神樂堂に用づくた

○護摩堂 本堂より大寺 明王十二天と安堂に御下

おしく正み九月十日より十七日まで天下安全乃

祈祈補護之を修せざるあり

○新唐門 素木造り法經より祀り能接竹

の彫物かた地志あり向の破門は許由墨尺のひい
 七賢七福神木の彫物あり天井は天女の彫物あり
 此法門は殊らば唐木城以て書あり懸くは此木の
 彫物ありて町寧ありてゆいけ一枚の板とそのまゝに
 繋るものあり何れと御やうあるも亦木の
 刻ひて接飾りたるおおもふ一掃の御之の妙なり
 神よ入るの之新唐根のよま唐銅ありて志とら
 ひしと懸るなり新唐門のたね

御幣殿
山繪、鳳
永真筆
云ナリ

ミたまき
高麻

△新本社

折堂神社の人五百有余代

後陽成院

後水尾院表院の所字にあらえ天下の

武情小体

せあひひ、吐握の号成解しと云

の傳入高社弁宮藤原公のそてしまであてり

治應三年作さるるふいあうり記 治治世久

發して元和二年四月十七日新藤原七千五歳

みとく治世ありかおて慈眼大伴と縁一先

治應約あつと別心王神を以てしと治り事

新本社
勅使下向

東照宮大権理と尊号代贈とせあふ 所代々

天下と蒙の内ふせうせあひ龜の尾のいと長

鶴の鬣歳をわさありて泰平と千方集の幸

とふ殿一ありんふとひとふ高社の神徳を

大なるいふゆゑものあり素も所守也の業作瑞瑞

光也東の應元相殿の摩多羅神山王丈持現

あはれ 東照宮と申す 毎年四月十七日

たまたま
名跡
九月十七日
九月十六日

九月十七日 神事あり 九月十六日 創幣使

とす 宣命と推す 式にす 神代

こして 宣命 一人 神代 神代

すして 又 宣命 二人 神代 神代

尚社の 宣命 式 宣命 宣命

し 宣命 一人 九月 宣命

宣命 一人 宣命 宣命 宣命

天下 安平の 宣命 宣命

○奥の院 神代社の後山と云ふあり 宣命 宣命

銅あり 宣命 宣命 宣命 宣命

宣命 宣命 宣命 宣命 宣命

乃の先 ○神代 宣命 宣命

東照宮 宣命 宣命 宣命 宣命

宣命 宣命 宣命 宣命 宣命

宣命 宣命 宣命 宣命 宣命

宣命 宣命 宣命 宣命 宣命

御構内

阿部忠

秋殿墓

倍空洞

墓トス

御灵屋

山内ニ

梶左兵卫

佐殿ノ墓

アリ此両

候ハ

大猷公鑑

臣故死後

至猶

尊靈ヲ奉

守護トス

二下領物トシテ○九郎トシテ 沢別高無量院の寺あり

△大猷院様 沢霊屋 以安 慶安四年四月廿日 沢地畧

尚心入 沢あり 沢様ハ先想ハリ 仁之あり 次ニ天

門法彰 後水尾院 沢 震等あり 次ニ夜更ハ

次ニ 沢屋ハ 沢 獨 齋 沢 拜 殿 沢 本 費 想 ト ス

此寺の花菱あり 東照宮ニおれト 彫石の

彩色 赤 赤 赤 七寶を 鑿め 沢 澤 澤 の 内

法丈名 危 執 之 の 石 燈 籠 食 燈 籠 又 百 卷 經 あり

延平ゆゑあり今の西大陣の法一禰あり法相殿
 の前より法水庭あり法三家法丈名宛より苑
 上より石焼苑あり回廊太の方のたより○龜井
 の水○指折のやう○石佛の三尊あり内不れたの方
 小高心法府至法廟あり
 本照院宮 久遠斎院唯之石 解脱院宮大明院宮
 新石塔あり回廊 ○文殊堂大師の法在地堂也
 求開持堂母系 鐘樓經苑法供所あり小堂より

御構内
 阿部忠
 秋殿墓
 倍空洞
 墓トス

御冥屋
 山内
 梶左兵衛
 佐殿墓
 アリ此両
 候ハ

大猷公臨
 臣故死後
 至猶
 尊聖ヲ奉
 守護トス

二下後物りらん ○ 法別高無量院の寺あり
 △大猷院棟法靈屋 慶安四年四月廿日法地畧
 高心小入法あり法棟は先想なり仁王あり法二天
 門法影 法水尾院法震尊あり法小夜舞門
 法小夜舞門法獨龍法祥殿法本尊想なり法
 法寺の花苑ありなり 東照堂小おれト形ちの
 彩色法法家かろ七寶を棟めりり法棟の内
 法丈名宛法との石焼苑令焼苑又百基法あり

朝鮮より献^{けん}むる金^{きん}幣^{へい}あり其の所^{ところ}堂^{どう}金^{きん}幣^{へい}

銭^{せん}ゆゑこれに毎年^{まいねん}正月^{しょうげつ}廿日^{にじゅうにち}四月^{しがつ}廿日^{にじゅうにち} 所^{ところ}代^{だい}

こゝに大名^{だいみょう}宛^{あて}奉^{ほう}賀^がなり其^{その}小^{せう}治^ぢ三^{さん}家^け五^ご法^{ぽう}代^{だい}評^{へう}

且^{また}前^{まへ}より奉^{ほう}賀^が申^{まう}込^この言^{こと}は後^{あと}者^{もの}を以^{もつ}て茶^{ちや}飲^{のむ}地^ぢ

○所^{ところ}代^{だい}不^ふ能^{ねい}光^{こう}院^{いん} 毎^{まい}朔^{しやく}所^{ところ}代^{だい}を備^{そなへ}ふ

△新^{しん}宮^{みやう}大^{だい}持^ぢ院^{いん} 八^{はち}棟^{どう}造^{ぞう}あり前^{まへ}より一^{いち}殊^{しゆ}殿^{でん}あり

日光^{にっこう}山^{さん}大^{だい}持^ぢ院^{いん}と稱^{しょう}し其^{その}所^{ところ}代^{だい}金^{きん}幣^{へい}六^{ろく}大^{だい}己^じ貴^き号^{ごう}か地^ぢ

千^{せん}手^て親^{しん}意^いあり社^{しゃ}改^{かい}とば仁^{にん}明^{めい}天^{てん}堂^{どう}社^{しゃ}嘉^か祥^{しやう}年^{ねん}申^{まう}

正應

鹿沼権

阿寄通銅

燈爐一基

三條小殿

宗近作

樺切

紀新大夫

行平作

慈覺大師法建^{じげつだいしほうけん}をあり凡^{おん}園^{えん}中^{ちゆう}の古^こ社^{しゃ}あり

東^{とう}鑑^{かん}ももてり其^{その}持^ぢ院^{いん}の所^{ところ}代^{だい}金^{きん}幣^{へい}又^{また}教^{きやう}成^{じやう}佛^{ぶつ}

徳^{とく}園^{えん}満^{まん}の所^{ところ}代^{だい}金^{きん}幣^{へい}あり万^{まん}民^{みん}器^ぎて作^{しやく}さなり

所^{ところ}代^{だい}金^{きん}幣^{へい}に神^{しん}寶^{ぼう}不^ふ 福^{ふく}切^{きり}丸^{まる}太^{たい}口^{くち} 廿^{にじゅう}日^{にち}月^{げつ}口^{くち}

柏^{かしわ}太^{たい}口^{くち} のつぎも五^ご天^{てん}余^よある其^{その}神^{しん}あり亦^{また}小^{せう}山^{さん}別^{べつ}が

其^{その}神^{しん}禮^{らい}申^{まう}その所^{ところ}代^{だい}金^{きん}幣^{へい}とて其^{その}神^{しん}禮^{らい}申^{まう}

珊瑚^{さんご}珠^{しゆ}一^{いち}百^{ひゃく}目^{もく}あり新^{しん}朝^{ちやう}公^{こう}所^{ところ}代^{だい}金^{きん}幣^{へい}

是^{こゝ}の所^{ところ}代^{だい}金^{きん}幣^{へい}奉^{ほう}賀^が進^{しん}伐^{ぱく}の所^{ところ}代^{だい}金^{きん}幣^{へい}なり

其外沙寶物あまこは運河や妻波の祀かじ
 申ふも勝道と之 権理の対面の村衣の祀
 小繪書あふ御神新もけ社岡小細まじり
 毎年二月二日祭あり二月廿六日より洋殿
 三社の神輿を飾り至供奉の氏子ハ枝取を
 前日より替古し其日に参りて祝ひ舞小業
 流しして紙幣を巻やう小石作を無ありて
 神意といふは心辨興ハ本意ハ行孝ありて

まる二江寺前小延年の森といふ森あり一山
 の尻徒中出初あり社を出たの京○金剛堂
 ○慈覺堂 素木造あり本意慈覺大師の
 法教を小三十番神不動尊を尊也○お供を
 ○新文右別不安菩提院 文珠の像千子の像あり
 左の堂ひがりの方ふあり
 ○新宮末社 ○十王子 ○毘沙門 山王社
 ○阿弥陀堂 無量寿の ○三尊石
 以上各所のまじり

○大黒文堂 蓮堂の傍 ○十是堂 ○地蔵石

さんび向ふよりん田ん圃龍光院表門あり是より

右の方流の尾乃よ合新より洗尾と十二丁

余あり小坂とせり中河と

○茶師堂 此より吳水出ると云流て目と

洗へむ法懸立不晴る是によつて目洗茶師と云

○初者堂 坂のど内りあり本寺坂の初者あり

赤小道公寮不 ○河番本あり坂と云

○石橋あり是と前通橋と云 これより又小使橋制の

ありそまよりそ丁道あり

△山王社 向洋造りあり赤より赤ありは社の

赤福年中慈覺大師は造りて子大持環面

不助堂 村山王と同じく 七社の内あり

○不動堂 本寺より小堂の傍に白

滝尾と云ふ流る石唐木とせり中河と

赤余大明神の石社あり左の方 ○坂中不動石佛

各所
 五十圓
 三十三番

あり○熊野杖とよて箸炊煮の湯あり飯と

○河内 け所あり日光責とて食物を

者あはせむに食物とよ(法責とてか)うゆ

梅持あとの責道具あまき(法責か)まりゆ

大にせ敷ふもり想(法責か)まりゆ

とに坊中町方あまもけりまり作園う

了とけりあて年成とふ人(法責か)まりゆ

河宮 河霊座 河仁系の大各院大せりの

毎年青元
 日の夜社同
 登り、鎮
 火祭の神
 あう倍小
 事と不姓
 百りの故
 奥の神祭
 あり

来客の地定の(法責か)まりゆ

日光の地あて(法責か)まりゆ

か形(法責か)まりゆ

その人の(法責か)まりゆ

氏家の地(法責か)まりゆ

正觀堂(法責か)まりゆ

梅院(法責か)まりゆ

本寺(法責か)まりゆ

△赤心 赤心不昆 沙河門 夫立せぬ 赤心 鬼門 赤心

あつらん 赤心 復のくろくあり 赤心 赤心 赤心 赤心

赤心 赤心 赤心 赤心 赤心 赤心 赤心 赤心

○天神社 洗尾の下のたふの方の赤心 赤心

赤心 赤心 赤心 赤心 赤心 赤心 赤心 赤心

菅系大寺 如氏法眼 伝出 本宰府の 菅系大寺

うつて 赤心 赤心 赤心 赤心 赤心 赤心 赤心 赤心

月廿六日 彼の 商任 伝石の 社跡と 遺文 伝 社跡

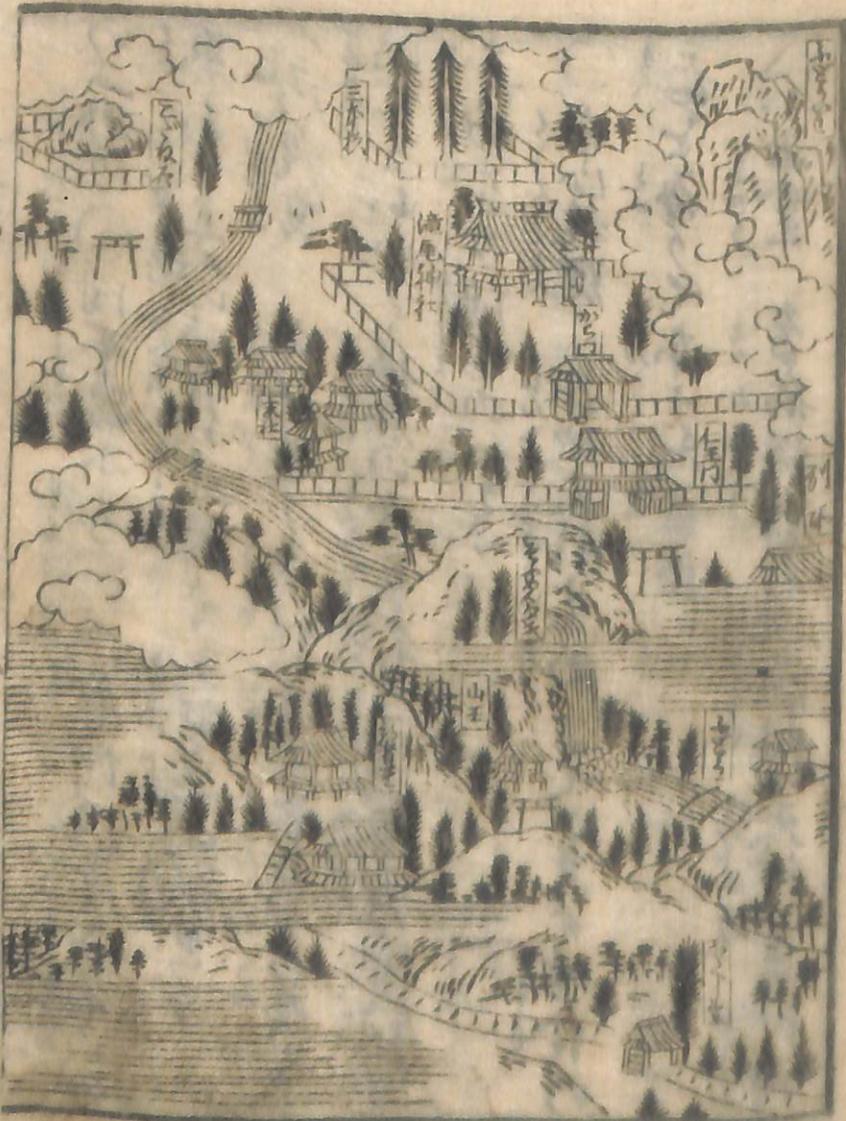
築地 赤心 赤心 赤心 赤心 赤心 赤心 赤心 赤心

△地蔵堂 宝形 送り あり 伝 赤心 赤心 赤心 赤心

本寺 只 社跡 あり 遺文 伝 赤心 赤心 赤心 赤心

赤心 赤心 赤心 赤心 赤心 赤心 赤心 赤心

の再 継 あり 赤心 赤心 赤心 赤心 赤心 赤心 赤心 赤心



○同和裏上之の法藝所は才子美人の

裏ありと之の法骨の申禪寺上野橋本酒造り

△浄苑宮 向洋造り尚社の本地普賢堂あり

此不ふかいと猿胎の女立教はもと安産と伝ふ

奇妙あり回廊のこまに

○白石権現 本地大形十一面 さんとも下坊舎の

前と母りて本堂へ出付

△小玉堂 多依洋敷あり尚社の天神堂の化神

あり本地合輪社のいとま秘事なき六歌

かざり是より一丁程ゆて本堂の境回へ入る橋を

こころ素木造りの堂あり

△四本龍寺 宝篋造り本堂の千手観音あり

又大尊佛乃と安産と尚山開心のこと此上之御座

ありーとこころあり

○三尊塔 本堂 釈迦 文殊 普賢

○御本社 前々拜殿あり本宮大権理あり

風千八
新宮
龍尾
寂光
右側
同日

味糲高彦根等本地馬匹親者なり大同二戊子年
 備乃け下よ高彦あり高社に宇於大明神に一神
 あり則宇於大明神の歌あり日元心慈現大良大明神
 此所にてあり高彦神の事なり武運長久ら矣此
 高彦神あり神徳高大有事申くはく此神
 小書らふよんハ慈あまに記とあらば元中船の大社
 あり神室ハ例年七月七日日風千八の神お祭申す
 船の蓮花束めて織き心切枝珊瑚珠ホその外

ありあまのり末社ハ○毎村天雲 每十五番子
 ○康徳社ハ地上面 ○本地堂ハ其起音 ○山王堂 ○福徳社
 ○採焼禮ハ不舞の不知 大目茶屋 ○鳥居 ○二十番社
 堂より ○別所ハあり日光堂のたきとかけあり
 別所同相おかけ一画ハ十画親者表あり別所親者の
 号符あり想ど何れも別所あり長床の間とあり
 秘密儀ハ修好の間あり其高の相傳佛神と表
 建重り故に穢色不傳の者ありのあらん



名跡
 三十二
 三十一

札を納むると又此所納まうとれりて
 たる不怠の念は此以て同不堂のうらよ
 釘を以て大祖是傳と人の法教あり是源上人
 開王より傳來せし是取の平文也とくしと
 此所の法記あり此堂の南少隔り小寺此所に由
 ○求闍持堂 本寺只虛堂花并慈覺の法化あり
 歌の一品唯后法親王履箱之とてまゝ寺に納入
 て此所の方ハ ○三十番神堂よとすに記ありて

○不痴堂 三善赤会の表社ありとて ○詳教
 所奉社 麻光之持理ハ下照那余本地安村至
 あり南社ハ弘仁十庚子年弘法大師ヲ開基あり
 此寶物ハ十二の事如白身の鏡その外救度
 右のうす不洗ありとの源とるす不きく指
 了く思へど一た下救尋の布紙晒がとおし
 洗の南小寺とる心のさ此最爲の左のかさふ
 石て此延の四字と宣海を志をあふは地り

山登小 ○ 石神の北麓に敷を去るに北の川端

○ 吳鹿園 此園より眺むる所の絶景又なる

庵より此眼を到るを紅葉溪の氷首と云

ら野々番種等の雪異域の枯料生を

養小得るるを向ふの雪山 ○ 赤柳を其外の

雪山へひんぐを記し 園の要小

○ 骨堂 此堂を岩と知れりけしけし

骨城洞むそのよき種心子の書る碑あり例

石の大地苑あり 石屋奉 此後よきと云る例あり

美草の門と入るようけしきやを二所ほど皆けし

境内なる名ある石のありこれと略し

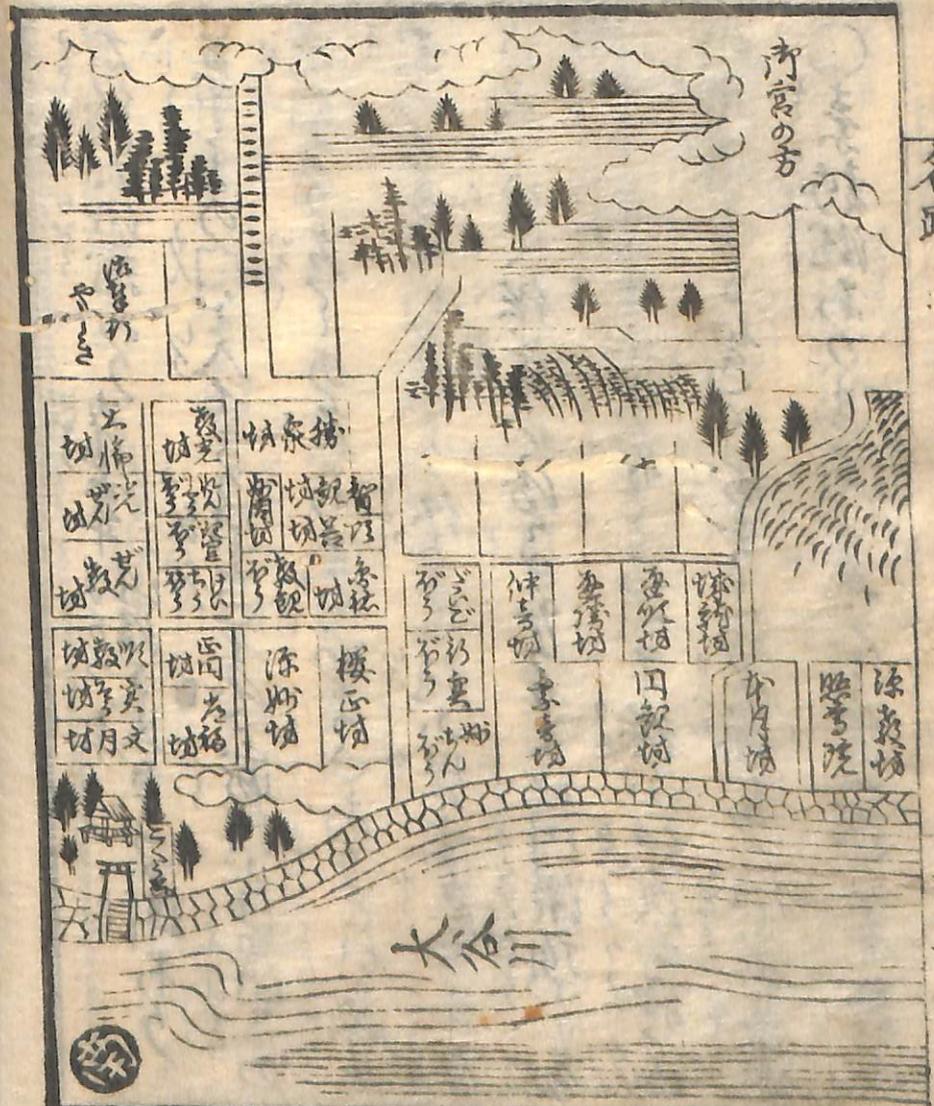
茶のちあかかきぐり松とて板小梵字名号示出

るを以て供養にゆきたりまき川灌頂も云

の山と度集の石の山とてしきし記以て石

の虫隠ふもあきくあまじ記異記ありしとの要小

○ 素新流ありまき ○ 平石とて十む六を其の



高野の方

三十一



津波切
巻子流

石ありまればより海陸の方せり〜

△二の文山 本地茶洲 妙珠金剛童子の霊あり

おれどはばさ〜 ○金剛山 けしと北極の南へ入塔

山伏の南あり秘密 勤行のた場ありけしあり

人老よりばどはばさ〜 心腹のえりあり

○松まじこれも入峯 勤行のた場あり想けしあり

みり〜 密〜 皆吳林のまきありあり

〜〜〜 記〜

△中禅寺の道筋 但神橋より中禅寺迄三里

原野ふあり田舟沢の橋と日ごろ川あり

○蓮花石町 坂とせりも ○地蔵堂あり町の中

ほら〜 ○蓮花石ありいそむ〜 傍に中禅寺あり

毎らせありふ時や〜 ひありふ〜 だか〜 かゆ〜

名有りて道花名ありふたのう〜 木立のうら

△十八王子 星六け町の標也 是より三町余た乃

方不之ニ良村と云ありけし村に社あり花燈の地

和宮
社家衆
六人合集
大天也

山村小へ葉師堂 本寺葉師二林 尊十二神十
 王奪存婆也神明的のやあり又芭蕉石所より
 二所余りくたの懸へ△大日堂 本寺石神の
 大目之 千神佛と安重に同なり地蔵堂あり
 け不の地形龜の伏がぶと一 乾小池と向水清く
 葉師ありくを深幽の地あり 偏し不ふまをを
 心る此身おもも多れと志らゆありは海宮と
 不く 巻しら巻し又大日堂の別をささり

右のくまた法二十町行く

△東見ヶ池

大湯名にめりもはたあり

其のうらえが 池ハ 巖さト出く 藤えかたより
 巖くたさいそ得づさひのたをりははかのう
 たる 岩層の中とささり此は既とうらより
 あり海く急とんと小荒沢石前明之なる
 九月半に名あり流急しとらども 裏より海く流
 へはあやかきうへにあり

○砂子沢橋ありむらり ○産れ子の足癒

ある石あり左のくふ ○鞍掛山 ○煩惱山あり砂子

沼ありけく ○香丹系地務堂ありそれら清滝村

△清滝寺 山号福山 本号子安の地蔵あり

聖徳太子不動ありけ寺の妙道院蓮華と

かろのく小砂屋の恒持けありて紙のありて阿久

○清滝校 け清神の文笠誓の清心金堂

神とあがれ法擁護の清神あり正月二三日

の洞窟あり修行ありけまのうらる巖屋山と

まてまてし清滝あり ○清滝とままか人里ふてけ

○魏音堂 本号子安 魏音の修行上人

中禅寺 立木の教者のうらまをりて彫刻

あり清長七尺をりあり中禅寺の女人禁制家

是は山前より前立をて悪男女とも不度く清と

張らせありあり坂出十八番の札を納る堂の

左のくこの原 ○尾尾村と云て洞山ありて

近津地蔵
中ト不動
聖ト同
茶屋補
程ヲ茶請
人之助トス

尾ありまねり五里をとり尾尾とせり上列も

行形りさへ親者もさへりたのこた三丁はた

○水沢村堂とて石坂とせり石社ありて

王坂とてふまより津たほと

△馬返村ありて牛馬をいづるゆゑとてあり

女人もこれより禁路あり是まて日光より二里

あり河系とせり○深沢茶屋あり坂は地蔵堂

ありまこせりりく

○不動堂 石神ありて道よりとれまて殊の外

秘雨の地は是を大平とて八丁領ありて湖水あり

○大鹿のふいす ○神子石とてありまこせり

○牛石わりの屋ありて是流ありて重り是より二丁あり

○栲河門 此中下ありてなめて赤清のやまあり

よりありて赤蓋成ねぐあり是と入

△中禅寺別所 補陀庵山中禅寺ありて此水

あり赤清の者垢敷とてありは此の殊勝あり

新湖ハ水々々凡異域也たぐひぢりるべし山巾ふ
 後者ごもい地ふ到て六分埋ふ入ると決るる以名細人
 其辨さる人ぢりふとけさ者あり大汚濁の心時
 七候心行ふ流せざらふ事ねしその異物あり
 八候んといふに云葉ふく記さるに筆の立
 不さうまふい湖水長三里幅二重ありい六里
 程も何り深ふ葉林脩行あり湖と蓋ふ
 といふに葉むらりも水面は澄むに底むら

深いといふ魚いとも作は練よけありふとて
 熱いといふ山門は六湖云ありその外小は池あり
 小四十八湖ありか多る山頂は多湖ありと
 壽代の異山ありまご湖の岸は○湖の地乾と云
 ありそ是より木の太考知と入るたふ○後様
 ○不動堂 奉考ふたの玉 ○妙見社 又またのふも
 本洋殿あり奉地神樹葉茂あり
 ○立木観音堂 奉考ふたの玉 又またのふも

四天之の像あり、佛乃と云ふ系と云ふ終ぶ彫刻一
 なる像坂東十番の礼あり、集指の周帳
 成致ふよ、別本の出巻のひらき付て周帳する
 元化圖小例を記異像あり、又云の像は法
 の佛又佛乃と云ふの沙新あり

○浄本社 若に洋版あり、尚社大権現の日光

三社の本社あり、本地深院千手千眼延暦寺中
 の法造管あり、神室の、蕨巻地経一卷、傘字の

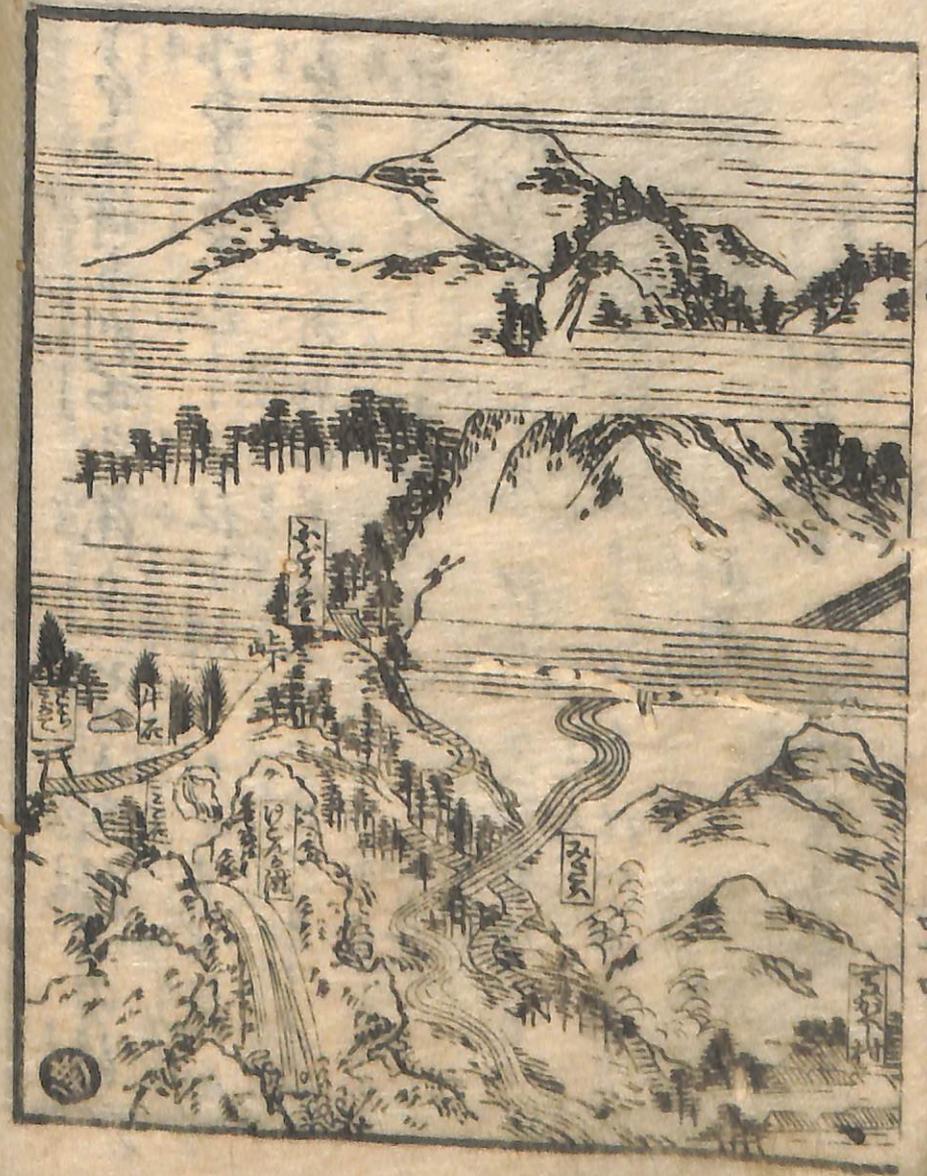
古ノノ説
 岳傳ナリ
 トイハ尺律
 古ヨリ書傳
 曇目ノ法
 當山ノ故
 大ナリ

法華經一部、八葉の鏡一面、水牛の香爐、家具の
 筆葉一管、油籠之の赤衣一領、長生畏禿の葉
 提子の珠敷、佛乃と云ふ法蓮生の財より、降ふ
 瑞杖の赤あり、あり、毎年正月七日武村の祭

ことあり、社司忠心して、上別赤飯の言ふむひて
 矢を放つ赤城の神社の神歌をうとく、い矢則
 赤城明神の籠に、と云ふ子たむ、矢ねこの候と云
 祝詞の矢と接と云ふ、と云ふよ、と云ふ赤城乃

氏子うぢこの山このやま一の志しをまふまあまりるるる本ほん社しゃ東とうのまみ
 男おとこ耕か山さん一の志しをまふまあまりるるる本ほん社しゃ東とうのまみ
 補おぎな陀た落らく山さんのし記きをあり中中ちゆう右う派はい流りゅうをまとりうう派
 次つぎ之の后ご公こう每まい祀まつり主しゅ法はう再さい興きやうありあり
 ○男おとこ耕か山さん又また築き山さん一の志しをまふまあまりるるる本ほん社しゃ東とうのまみ
 志しをまふまあまりるるる積つ雪ゆき長ながあまりるるる重おも凡ふん人にん
 のし肌はだとぬ徹とほ系けい山さん頂ていまま○三さん社しゃ持もち現げんまませせああふふ十じゅう八はち日にちの
 行ゆきあありる毎まい年ねん七しち月げつ七しち日にち付つ家けにに志しをまふまあまりるるる七しち月げつ初つひめめ

上かみ中ちゆう神しんもも別べつ而りやう小せう流りゅう一いつ七しち日にち同どう行ぎやうのゆ行
 作さりる志しをまふまあまりるるる三さん社しゃとと殊しよ一いつななままるる信しん心しん
 志しをまふまあまりるるる六む奇き妙めうのみ異い蹟せきああままりるるる一いつ百ひゃく一いつ十じゅう一いつ日にち
 記き一いつかか一いつ山さん男おとこ耕か山さん一の志しをまふまあまりるるる三さん下げ志しをまふまあまりるるる
 ○戒かい煙えん堂どう○本ほん堂どう○秋あき田でん○文ぶん珠しゆ壽じゆ賢けんありあり
 以もつ而りやう三さん國こくのし志しをまふまあまりるるる本ほん社しゃ東とうのまみ
 ○根ね草そう社しゃ○山さん王わう社しゃ
 ○三さん堂どう塔たつ○推おし枕まくら禮らい摩ま新しん



湖水のむふとけふふんてい

○歌演 かぶらむ 宮にむかしは神軍に討猪と云ひ

けふはは凱陳あつて徳卒の神軍おさる衆と

うそひぬひぬまのくろくろく月ぬるとを かいつ 奉る

吉祥天兵ふ弥勒菩薩金剛童子あり又は後

の入徳山伏の病あり毎年三月十三日山より入

四月廿二日に吐蕃をまはせ張苑徳の峯とつら

まことなりと説行とてむふの巻くおんてい

○寺の清 きよ 茶師堂 ○日輪 にちりん 大工名所

揚屋の沙形あり ○上野橋 湖中の橋をさす

口舌はとあり揚屋の沙岸は橋を納まじり

○梵字石 ○枕巻石 ○俵石

○千年の演 えん 観音堂并に法供所あり奉る

千年観音揚屋の沙形あり ○毎年六月廿九日

七月までた偈一七日の行あり、演禪願とて

紅ふ糸巻との巻歌と譯しめたる偈を巻巻の

交して時をあらぬまふあふ公地せり

不承人もまた心算のこころを亦のちりえ好むは

と修博のよあつとありひあつとていひは

○湯洗とふとゆらえきつひよ道づき洗乃

例とをうて ○湯之石 湯子家八軒あり

二月中旬より九月の迄まて高倉おあり

そのと白はあり湯の名ハ

○河新湯 〇洗湯 〇洗湯 〇洗湯

○無湯 〇自存湯 〇中湯 〇茶味湯

○河奈湯 以上湯の品八五 湯坪十一あり

木の湯つりも積と黄痲の忘る自余の病

ハ何れもも奇効あり湯坪まじく赤藤

あり湯治の昔年毎小群集せり

此湯の心 〇大真子 〇小真子 〇新心

〇帝杖藏 〇大玉心 〇雲心 〇赤心

〇三善心 〇赤念心 〇鈴ヶ藏 〇温泉藏

○女峰山 おんなのね

○大御嶽 おほみづたけ

○月山 つきやま

○白根山 しらねやま

○湯敷山 ゆふきやま

男狩心のおかきと後ふわり出羽の玉

湯敷山とうりせきと美湯敷山とくんと前

はなまきと寝んが院のた前と寺りあり

○華厳院 けんごん 星六中禪寺院路大庭神子石のふ

よりお六下約えけ院ハ湖水の流ありたが敷面

舟の舟と曝とふ似て其をさるの玉成つら

ゆき銀漢より酒あつらとらとらとらとら

銀河側掛三石梁香 盧瀑布遙相望と化

流伴と膝くらふ同らむはてふびるを流らん

院の香の奇樹異果の花結を流し英果心

以不分 ○大平不動堂のふゆえとれより

下向して寝えが院ハ水沢村のふら

石ありて一里をどゆきありまより大田堂のふ

ゆきあり

右日光異地津刺くくく津くくく

口又日も 運高せざらぬ 巡中をくか

○日光名物

無患心を 喰いんと 二光杏 一たう 二油杏

轉 かけ花 粟鹿 鶯前 せと

やゆ子 山椒魚 いもれ やま

年魚 山椒皮 ことの子

大根 自然草花 銀杏いも

里芋 蕨 河湯苔 山かんびやう

あけで せう油 林麻 松茸 椎茸 雲茸

あけ草 白根糸 油茸 茸 杖杖杖

蓬 やまびいやく 石南木 沢っ橋

若柳 一柳梅 岩かぶ 雲ひと 雲むらさ

若くは 四梅系 白根菜 熊笹子 致盛系

若松 千手かんひ 是蘭 日光小菅 栗心花

熊柳 ちんちん 麻草 天南星 牛蒡

▲夏枯草	▲福括	▲羌活	▲葛根	▲磁石
▲薄荷	▲黄連	▲枳殼	▲胡黃連	▲高麗
▲木通	▲車前子	▲桑葉	▲桑葉	▲藜蘆
▲草果	▲忍冬	▲石斛	▲白朮	▲茯苓
▲茯苓	▲山茱	▲百合	▲山香子	▲人參

此外藥品較稀あり是れども畧之

▲香薷
▲菱椿
▲細工の紙
▲指物
▲折袋
▲曲物
▲挽物

堀石 川柳 柳

▲補方道法附 但日走神機あり

○河宮一七丁 ○滝尾一八丁半 ○清池一里

○河具急一十丁 ○森光一里 ○表之池一里半

○新宮一十丁 ○倉儀一十三丁 ○中禅寺一里

○安房海邊 一、二里半 林檎の木の河原と云ふ所あり

○かけ湯 地蔵ノ下三丁余 これい小倉心のひがしあり

○湯敷山 三里半 ○中禰の湯 六里 ○川俣湯 八里半

○足尾 六里 足尾を渡り上段妙義山行者湯橋あり

ゆきあり日光より妙義山まで二十七里余

○今市 二重 此所沢のくさ森の洞竹の湯は若狭あり
日光寺用のくさ沢代官館ありあり

△今市より ○宇都宮 七里 ○鹿沼 五里

○大田原 土畢 此所の湯あり
○七条峠 八里 これ小倉の湯あり

△宇都宮 今市町へいひり

日光ノ今市ノ二り

今市ノ大沢ノ二り

大沢ノ上徳久ノ二り

●中徳久ノ二り

下徳久ノ二り

此所より日光へは
は宿出てもはこれより
大岩寺 観音のたあり下
徳久より一里半ほどあり

△鹿沼通 今市町とむ

今市ノ板橋ノ二り

今市町とあるは板あり是
よりたのこのた大岩寺

ゆきありたのりみり余

板橋ノ鹿沼

あり此のち文様とあるは
あり日光より出ふいあり

より板橋まで一里半ほどあり

大谷よりうつの為三里あり

上穂より宇都宮ニリ

宇都宮から 権の美ニリ

・大田系 十丁あり

・津くむ 十一丁あり

・かーより 二十丁あり

権の美 石橋 一丁

石橋 小令井 一丁

小令井 新田 一丁

新田 小山 一丁

●日光 小山 十六里

麻沼より 十丁あり

大門系より 小田あり 備後

たのこふ 出流 一丁のたのこ

日光 出流 一丁 十三里

麻沼 系 一丁

系 備後 系 小田 系

次あり 日光より 備後

こる 一丁 つを 日光より

小田 系 一丁 備後

備後 あり

△奥羽海道 大田系

今市 大田 一丁

比呂 大田 あり

大田 系 一丁

比呂 大田 あり

今市 大田 一丁

玉生 大田 一丁

今市 大田 一丁

△会津海道 五十里

今市 大田 一丁

比呂 大田 あり

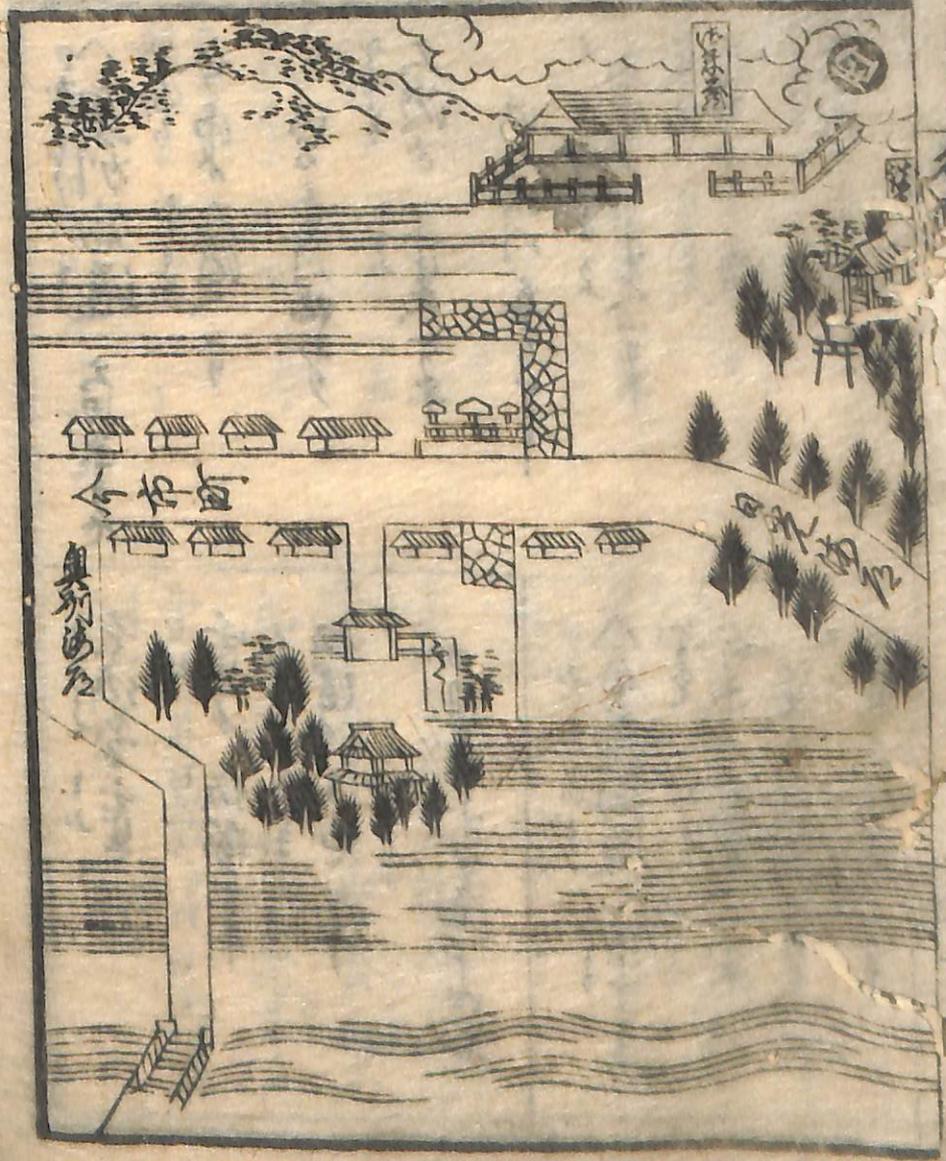
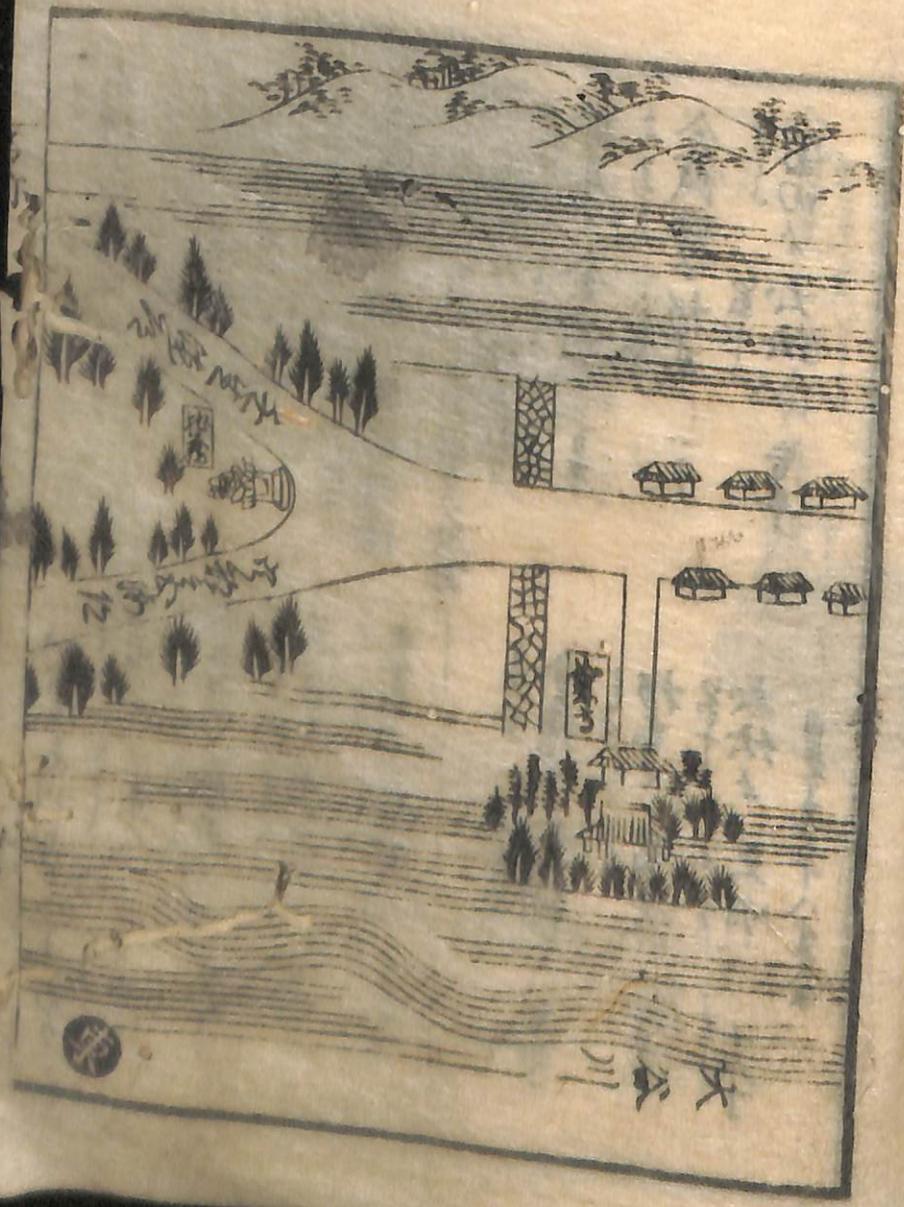
●日光 小山 十六里

△会津海道 五十里

今市 大田 一丁

玉生 大田 一丁

今市 大田 一丁



矢板の沢村 一里

沢村の大田原 一里半

日光より 十二里半

佐野海老原と翌の順路

佐野の町と備前あり

金崎 一里半

合戦場 一里

富田の太仗 一里半

山崎の川

大原 一里半

大原の原 一里半

原 一里半

五十里 一里半

合戦場 一里半

富田 一里半

太仗 一里半

日光より十八里余

△日光山坊舎并 銘後修光

一山學 一里

東照宮御別所

御堂坐御別所

新宮御別所

慈眼堂御別所

清大原危高坊院

候學院 備正

大樂院

龍光院

安樂院

五尋院

南殿院

△日光山坊舎并 銘及僧流

一山學頭

東照宮御別所

御靈坐御別所

新宮御別所

慈眼堂御別所

○ 殿中二十院并 諸大名宛坊院

候學院僧正

大樂院

龍光院

安樂院

無量殿

南殿院

外部
西御所
公院

外部
十二家

松平因幡 外十三家	松平大淵 外十八家	順井倫理 外五家	宗別 外八家	太南 外十一家	真白 外九家	松平加賀 外十二家	松平深妻 外十家
海居院	遊城院	櫻木院	教本院	醫王院	惠宗院	法門院	觀音院
東山	日	日	日	日	日	日	中山
尾列 外一家	松平和來 外二十二家	松平土佐 外十三家	紀列 外三家	松平伊予 外九家	水戸 外七家	細川 外二十九家	松平河渡 外二十家
日精院	教城院	福智院	護光院	元苑院	難源院	淨去院	實教院
東山	日	日	日	日	日	中山	日

櫻木院
外十一家
光樹院
中山
照平院
中山

坊八十字
東山谷

妙見坊	妙會坊	光榮坊	出鏡坊	日輝坊
永觀坊	永觀坊	永觀坊	永觀坊	永觀坊
永觀坊	永觀坊	永觀坊	永觀坊	永觀坊
永觀坊	永觀坊	永觀坊	永觀坊	永觀坊
永觀坊	永觀坊	永觀坊	永觀坊	永觀坊

● 佛岩谷

西谷城
 心定城
 龍泉城
 妙日城
 勝泉城
 藤江城

秋保城
 妙力城
 光親城
 通光城

光石城
 許久城
 龍親城
 林教城

鏡陸城
 越前城
 大月城
 赤松城

忍性城
 肥前城

仲善城
 古光城

光音城
 藤江城

仍真城
 妙隆城

● 西山谷

不動城
 梅石城
 正秀城

碩善城
 深妙城

赤松城
 常福城

教城
 竹光城

永南城

赤松城

● 長女寺谷

附在長女寺谷の社あり

大板坊
実務坊
教光坊
正末坊

光祥坊
文月坊
妙岳坊
櫻葉坊

禪教坊
理宣坊
深教坊
林守坊

以教坊
蓮播坊
金露坊
道不坊

日光名跡誌 大庵



享保十三戊申天如月元版
明和元甲申仲秋改版
文政五壬午仲秋改版
天保十一庚子歲二月改版

御免
日光右屋町
大嶋久兵衛藏板



石
成
書
御

石
成
書
御

石
成
書
御

石
成
書
御

石
成
書
御